

高次脳機能障害支援基礎講座における個人情報の漏洩について

県が主催した高次脳機能障害*支援基礎講座（受講者 345 名限定のオンデマンド形式）において、外部講師が作成した講座資料に個人情報（氏名 1 名分）の黒塗り処理が不十分な部分があり、個人情報漏洩する事案が発生いたしましたので、ご報告いたします。

現時点において、被害等が発生したとの情報はございませんが、今後、同様の事案が発生しないよう、再発防止に努めてまいります。

*高次脳機能障害：脳血管障害により記憶や発語などの機能が損なわれる障害

1 事案の概要

(1) 情報漏洩の状況

- 11/13 講座資料及び動画(パスワード付)を県HPに公開するとともに受講者にパスワードを送信
※講座資料及び動画は受講者のみが閲覧可能
- 11/21 受講者から講座資料の個人情報に関する部分の黒塗りが不十分とのメールを受信
- 11/22 上記メールを担当職員が確認し、講座資料を差し替えるとともに、受講者に対して講座資料の廃棄及び差替を依頼。
情報漏洩のあった方への謝罪の実施。

(2) 情報漏洩の内容

- 講師が所属している障害福祉事業所の利用者の氏名（1名分）

2 原因

- 講師が作成した資料について内容の確認を行っていたが、個人情報の黒塗り部分が不十分であることに気づかなかつたため。

3 再発防止策

- 講師に対して、講座資料の作成にあたって個人情報の取扱いに十分注意するよう書面等により依頼する。
- 講座資料の内容について、個人情報が含まれないよう複数人で確認を行う。

[参考] 高次脳機能障害支援基礎講座

- 開催趣旨：実際の症状や必要なサービスなど高次脳機能障害支援に必要な基礎知識を習得するための講座
- 実施方法：動画配信（受講者のみ限定）、講座資料はパスワード付で県HPに掲載
- 受講期間：2023年11月13日(月)～12月22日(金)
- 受講対象：障害福祉サービス事業所の職員及び高次脳機能障害支援に関心のある一般県民
- 受講者数：345名

【参考】 講座資料のイメージ（黒塗り不十分）

